



# 地域課題解決へと向かう教育者を育てる教育 心理学者の七転八起

— 準正課プロジェクトにおいて学生の  
エージェンシーを引き出すには

信州大学での実践の事例から

**信州大学教育学部 三和秀平**

# 話題提供者について

2

## 所属

教育学部現代教育コース発達・教育心理ユニット

- ・教育心理や認知心理の授業やゼミを担当

→教師やカウンセラーを希望する学生が多く在籍

教師になるかどうか迷っているような学生も多い

## これまでの研究

教師の動機づけにかかわる研究

→教師も自律的な動機づけが大切！

\* これまでは質問紙等による研究を中心に行ったが、実践の中で葛藤中

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」  
（令和3年1月26日 中央教育審議会）

3

## 令和の日本型学校教育を担う教師の姿（中央教育審議会, 2022）

- ①環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ②子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ③子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えていることが求められる

→このような教員を養成するために、学生時代に主体的な学びを行う機会が必要では？

# 信州大学における準正課活動の認知

4

愛媛大学や高知大学ではHPで準正課活動の紹介がされているが信州大学ではされていない。

→学生にとって馴染が薄い。

The screenshot shows the Kochi University website. The navigation menu includes '大学紹介', '学部・大学院', '教育・学生生活', '研究・産学連携', '国際交流', '病院・附属施設', '就職支援', and '入学案内'. The '教育・学生生活' section is active, and the breadcrumb trail is 'HOME > 教育・学生生活 > 学生情報 > 準正課活動'. The main content area features a banner for '教育・学生生活' and a sidebar with '教育活動' and '学生情報'. The '準正課活動' section is highlighted, and the text below explains that these activities are supported by the university as part of its educational mission.

<https://www.kochi-u.ac.jp/campus/life/junseika.html>

The screenshot shows the Ehime University website. The navigation menu includes '大学生生活' and '準正課教育'. The breadcrumb trail is 'ホーム > 大学生生活 > 準正課教育'. The main content area features a sidebar with '大学生生活の手引', '学生の方へお知らせ', '履修について', '図書館蔵書検索 (OPAC)', '授業に関するガイド', '生活ガイド', and '特色ある大学生生活'. The '準正課教育' section is highlighted, and the text below explains that these activities are supported by the university as part of its educational mission.

[https://www.ehime-u.ac.jp/campus\\_life/ex-study/](https://www.ehime-u.ac.jp/campus_life/ex-study/)

# 信州大学教育学部としての取り組み

5

## 信州大学教育学部「Educational Challenge」

🏠 > Educational Challengeとは？

### Educational Challengeとは？

Educational Challengeとは、信州大学教育学部が、学生・院生らの自発的な取り組みを促し、活性化させるために、学生・院生らの教育についての自主的な企画や事業のプロジェクトに対し、予算的な支援をする事業です。

主催：信州大学教育学部



教育学部学生・長野キャンパス院生の皆さんへ  
教育についての自主的な企画や事業のプロジェクトを  
学部が支援します！

**Educational Challenge 2024**

部門 以下の2部門で採択されると最大10万円を支援  
①Ongoing project 部門＝種別無制限、事業の継続  
②Challenge project 部門＝新規挑戦の企画・事業  
支援期間 令和6年6月中旬～令和7年2月末まで  
募集 4月24日(水)～5月27日(月)  
問い合わせ・詳細 右下QR内の募集要項を参照

主催：信州大学教育学部

ご支援いただいている企業・団体・個人の皆様  
(公財)東信病院 (株) 環境業 (株) 丸富土  
(株) 株式会社 (株) 株式会社 (株) 東和 様  
長野県中学校校長会・中学校校長会 (公財) 信濃教育会  
岡野園トータルデザインアカデミー 信州部子  
ANGEL LUXアカデミー  
多くのご支援に感謝いたします

学生の自主的な活動に対して、  
活動の資金を援助

教員は顧問として参加

\* 本発表の活動は応募していない

# 今回の取り組みのターゲット層

6

主体的な層

支援がなくても自分たちで課題を  
見つけて取り組む

何かしたい層

何かやりたいと思うが、何をするか  
決まらず具体的には行動していない

活動は不要な層

活動に興味がない、または別の活動  
に打ち込んでいる

# これまでの取り組み

7

前回のシンポ（三和他, 2022）では教師主導の取り組みを発表。

→**教師が主導し，研究の一環として子ども支援**

- ・ **学生は活動にかかわるスキルは身についた。**
- ・ **しかし，学生の自主的な活動とは言い難いものに。。。**

→学生に選択肢を与えたり，活動の価値を理解させる必要がある。

- ・ **一方，学生主体では手を挙げる学生がいない**

→大枠を教師が定めて，学生が参加する形に



# 話題提供の内容

8

信州大学教育学部の学生の学びを育むための  
準正課活動（正課外活動）の実践事例を報告  
する。

- ・ **仮想空間上の放課後教室信大マイクラ**
- ・ 新しい教育支援センターSaSaLAND



# 教師がテーマを設定し、学生主体 で取り組む活動の企画

9

## 信大マイクラ

教師が活動のテーマを与え、  
やりたい学生を集める。

活動の進め方やマネジメント・  
企画などは学生に委ねる。



信州大学三和研究室では信大マイクラを実施しています。  
信大マイクラでは、マイクラフトというゲームを通して信州大学教員や大学生、小学生がオンラインでつながり、定期的に話をしながら一緒に遊びます。  
バーチャル空間上の学童クラブのようなものだとご理解ください。

マイクラ上での活動は、参加者と大学生で相談をして決めていきます。  
子どもは勉強を教えてもらってもOK、建造物を作ってもOK、相談事してもOKです。  
\*詳しくは下のQRコードより説明動画をご参照ください。



### 参加の条件

- ・大学生であること\*ボランティアでの参加となります。
- ・マイクラフト (Java版) ができるパソコンとネット環境が用意できる方
- ・定期的に参加する気持ちがある方
- ・決まりを守って参加することができる方
- ・ネットリテラシーに理解がある方
- ・子どもとのコミュニケーションに抵抗がない人
- ・マイクラ初心者でもOKです!



### 参加者には先着でマイクラフトアカウント (java版) をプレゼント!

- \*マイクラフトのアカウントを持っていない方に限ります。
- \*パソコンやネット環境、マイクラフトのダウンロードは各家庭でご準備ください。
- \*JAVA版を使用するため、基本的にはchrome bookやタブレットでは参加できません。ご注意ください。

### 実施日時

週に1~2回程度を目安に、定期的に行います。  
すべて参加する必要はありません。シフトを組んで参加できる日に参加してもらいます。  
月末に次の月の実施する日程をお知らせします。



説明動画は  
こちらから



興味があれば三和に  
ご連絡ください。

miwas@shinshu-u.ac.jp

# 信大マイクラの概要

10

## 活動頻度：

週に2日1回1時間程度

## 参加者：

子どもの登録は19名（1日あたり5~7名程度参加）

→長野市内が中心だが，松本市，千葉からも参加

大学生の登録は17名（1日あたり1~3名参加）

→信州大学が中心だが，高知大，早稲田大，鳴門教育大からも参加

## 活動内容：

集まってから何をやるか話し合いで決める（通常日）

マイクラを使った企画を実施（企画の日）





# 学生とのやり取りはSlack上で実施

12

チームMinecraft 内を検索する

# 信大マイクラ報告用

8月29日 (木)

0:36

今日はマイクラカップに提出する作品を作る組と、普段通りに遊ぶ組に分かれて活動しました。作品の提出は今週末になっているので、子どもたちは追い込み作業中です！

2個のファイル

9月5日 (木)

0:06

今日はベッドウォーズの会場の作成と、pvpをして遊びました。次回以降ベッドウォーズで遊ぶのが楽しみです。

2個のファイル

+ 活動後に  
学生と教員で  
ふり返り

# 活動の様子

13



# 課題点

14

- 学生の活動が継続しない
- リーダーが多忙な時期などは、教員が主導する場面が増える
- 代替わりでの接続で失敗
- 学生の成長をどのようにみるか、研究に落とし込むかが定まらない

# 学生ごとの各月の参加日数

15

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
A	7	4	5	8	7	6	7	6	7	5	4	6	9
B	3	4	2	1	5	3	5	6	4	2			
C					1			1	1				
D	3	2		3									
E	3			4	1								
F	1		1		1			1		1			
G*		1	1		2	2			1				
H	1		1										
I					1	2	1	2		3	3		
J*					1	1							
K*					1	3	2		4				
L						1	1						
M*						1							
N						1	2	3	2		2	3	3
O						1	1			1	1		
P*							6						
Q							1	4	1	5	2	1	
R												2	
S												1	2

\*は実習の単位が出る活動として参加

なかなか継続しての参加につながらない

# 学生の障壁になること

16

## 参加した学生が回答する障壁になること

(2024年8月にアンケートを実施)

- ・ 授業やアルバイトによって時間がとれない
- ・ マインクラフトの操作がなれない
- ・ 子どもとのコミュニケーションが難しい
- ・ Wi-Fiやパソコンの環境が不十分

操作やコミュニケーションは努力してほしいが、それが難しいのがこの層の特徴？

主体的な層に比べて「できる」感覚が低い？

→ **基本的なスキルの獲得のための支援は必要！**

主体的な層

何かしたい層

活動は不要な層



# 期待—価値—コストの観点から

(Eccles & Wigfield 2002, Barron & Hulleman, 2015)

17

- **期待**：自分は上手く支援することができる (X)  
→ **ここが十分とはいえない**  
一定の水準に達するまでは伴奏が必要
- **価値**：活動への参加は自分にとって大切である (○)  
→ 活動への価値は多くの学生が感じている
- **コスト**：参加をすることの負担が大きい (X)  
→ 自分で企画をしたわけではないため、他の活動を優先しコスト感が高い

# 自己決定理論の観点から

(Deci & Ryan, 2002)

18

## □ 自律性の欲求 (○)

→今回は自己決定の機会を多く与えている

## □ 有能さの欲求 (X)

→**ここが十分とはいえない。**

自分ができるという感覚が不十分

## □ 関係性の欲求 (△)

→代替わりのタイミングで学生間の相互作用が減  
オンライン上でのやり取りのみに。

# 今後の活動での改善点

19

## □ 学生間の交流を促す

→メインの学生が卒業をしてから交流が弱くなる。教員も多忙になり、学生とのコミュニケーションが希薄化していた。

## □ 一定のレベルに達するまでは伴奏する

→活動への参加や活動のための準備を学生に任せすぎてしまっていた。また省察を促すに留まり、スキル・知識アップの指導は不十分。

自分で活動できるようになるまでは、支援が必要。

# 話題提供の内容

20

信州大学教育学部の学生の学びを育むための  
準正課活動（正課外活動）の実践事例を報告  
する。

- ・ 仮想空間上の放課後教室信大マイクラ
- ・ **新しい教育支援センターSaSaLAND**

# SaSaLAND

21

長野市の新しい教育支援センター

教育支援センター

「SaSaLAND」の開設について



令和6年4月開所

長野市教育委員会 学校教育課



## 子どもたちのために子どもたちと作る居場所の創設

### コンセプト **子どもたちが安心を実感できる居場所**

- ・自分らしくいられる → 自己決定、自己実現を応援する場所
- ・自分を受け入れてもらえる → 自分を理解してくれる大人に見守られる場所  
話を聞いてくれる大人がいる場所
- ・自分のペースで学べる → 「何もしない」でもOKな場所  
メタバース内で自宅からでも通える場所
- ・保護者の気持ちや和らぐ → 心理や福祉等の専門家に相談できる場所  
保護者同士が繋がり、話し合える場所
- ・大人が理解を深められる → 保護者、教職員、地域住民が学べる場所

**対象者** 長野市内の不登校もしくは不登校傾向にある小・中学生

※中学卒業後、18歳までの若者や近隣市町村の児童生徒の受け入れを検討

# SaSaLAND

長野市HPより

<https://www.city.nagano.nagano.jp/n601000/kosodate/p001548.html>

23



## メタバースを活用したオンライン活動

### 自宅に居ながらオンラインで通える居場所

ものづくりゲームのMinecraft（通称マイクラ）の世界に交流できる場を整備

#### メタバースSaSaLAND



様々な事情により学校や教育支援センター、  
フリースクール等に通えない児童生徒



他者との交流



笹平分校を再現



様々な活動

自宅からの外出（登校や通所）



生活リズムの改善  
やる気・活力の蓄積  
意欲の向上

個別相談対応（不安の軽減）

# 学生ボランティア（SaSaフレンド）

24

**信州大学教育学部，大学院の学生が中心で運営**

- ・ **SaSaフレンド**（101名）

SaSaLANDでの活動に興味のある学生が参加

- ・ **コアメンバー**（13名）

大学院生が中心で学生の運営を取り仕切る

- ・ **大学教員**（メインは4名＋複数名）

大学教員の専門をいかした支援や企画を実施



# ミーティング

25

## □ コアミーティング (月に1回程度)

→中心の学生が集まって活動の報告, 情報交換, ALLミーティングで話す内容などを精査

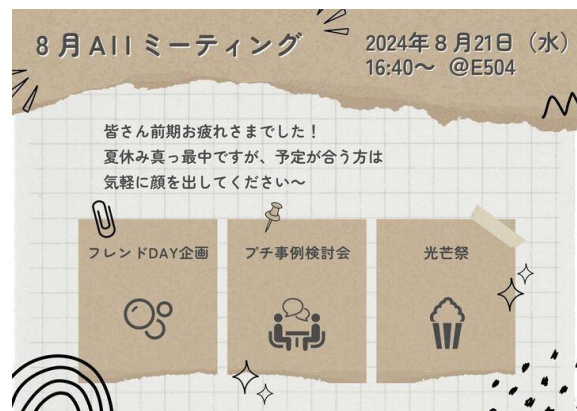
## □ ALLミーティング (月に1回程度)

→参加学生向けの情報交換, 研修

\* 事例検討や悩み相談などを実施

## □ フレンドday企画 (担当が実施)

→毎月学生が施設で行う企画を考えて打ち合わせをする。



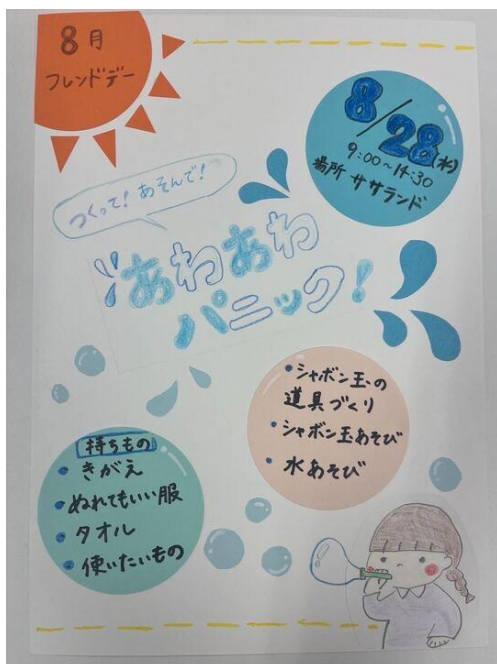
# フレンズday

26

企画・広報

実施に向けた準備

実施・運営



# 活動を支える要因

27

## □ ALLミーティングでは悩み相談や事例検討会を実施

→学生の期待や有能さを支えることができ、主体的な参加につながっている。

## □ 毎月行う企画は学生がそれぞれで実施

→企画の段階から、現場スタッフとの打ち合わせ、準備、当日の進行まで学生が担当している。

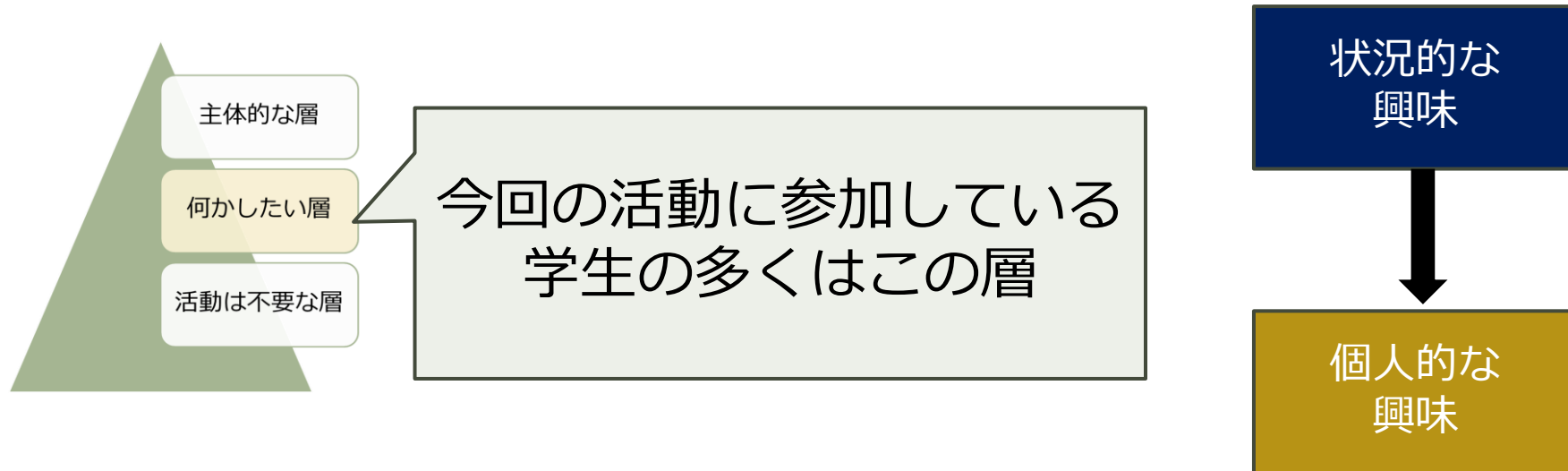
内容はミーティングの際に他のSaSaフレンド（学生）にプレゼンし、ブラッシュアップしながら企画を進める。

主体性をいかしつつ、学生の期待や有能さを支援している

# これまでの活動を通して

28

準正課プロジェクトにおいて学生の  
エンジェンシーを引き出すには？



**期待や有能さが低い学生が多い。**

→まずは大学教員が伴奏しつつ、基本的な知識やスキルの獲得  
ポジティブな経験を支援していくことの重要性を実感。

# 学生のエージェンシーを引き出すには？

29

学生の主体的  
な参加

理想との  
ギャップの経験

省察

先生が面白い  
ことをやって  
いる

思っているの  
と違う

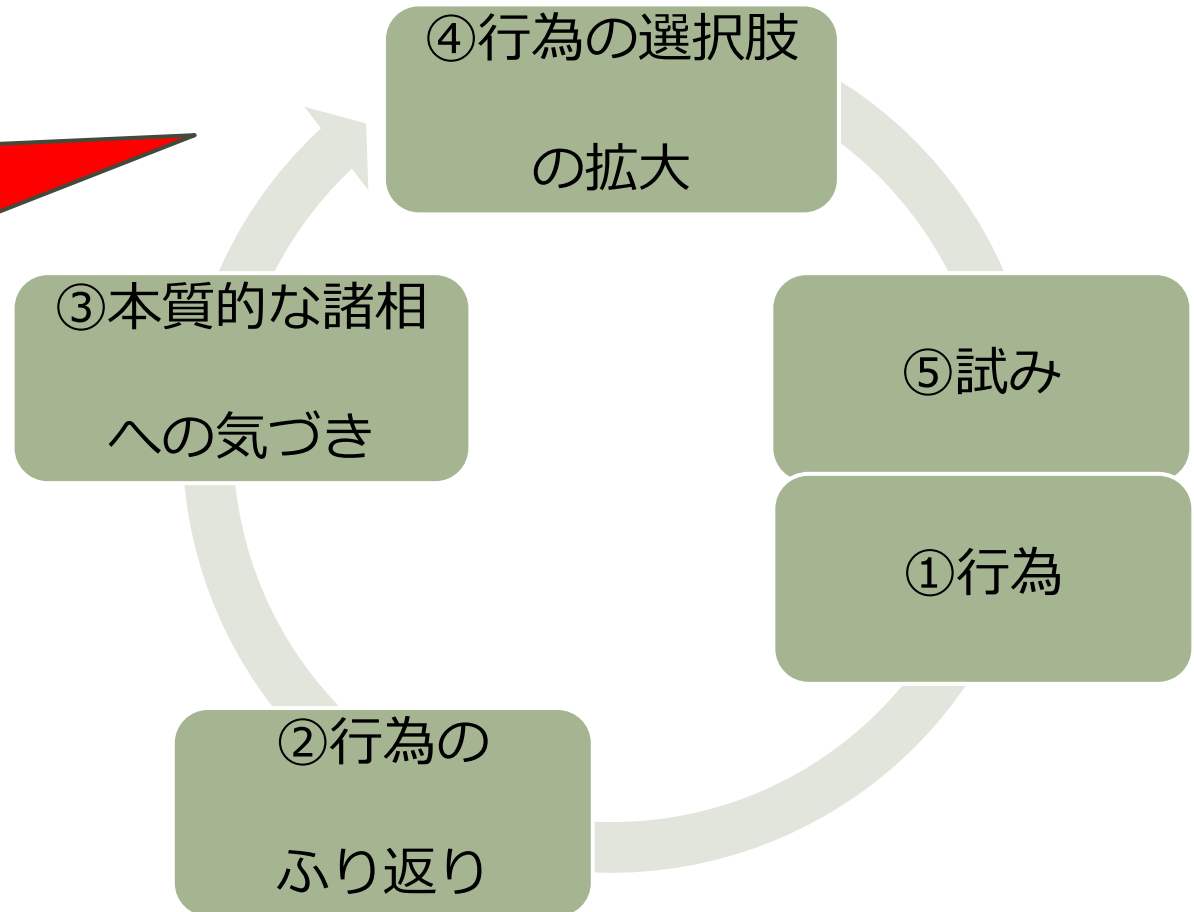


省察を促すだけでなく、  
スキル獲得まで伴奏すべき？  
→それができるのが**準正課**

# ALACTモデル (コルトハーエン, 1985)

30

ここでのスキルや  
知識向上のために  
大学教員の  
アプローチが  
重要になる？



# 今後の課題

31

## □ 学生の成長をみとるための方法を検討

→背景となる理論や成長をどのように把握するかを吟味する必要がある。

## □ 限られた時間の中で、学生に対する支援をどの程度、どのように行うべきか

→具体的な支援の方法や適切な頻度などをみとっていく必要がある。

## □ 活動をどう評価するのか？